



絵馬に踊る白蛇に
まちを守る祈りを込めて

profile

1955年10月13日生まれ。旧 趣
虻田町出身。入江4区在住。
味は人間ウォッチング。

Spotlight

スポットライト



虻田神社に巨大絵馬を奉納する

伊藤 陽子さん

2025年の干支「巳」(蛇)は復活や再生の象徴といわれ、古来から幸福と長寿をもたらすと信じられてきました。昨年、創建から220年を迎えた虻田神社は、蛇ととりわけ深い縁で結ばれています。複雑な気象条件が一致した

ときに現れる現象「雪紐」。粘り気を帯びた雪が紐や蛇のような不思議な形を造ります。虻田神社の鳥居にまるで白蛇のように見える雪紐が現れたのは2012年。以降もまれに確認されるようになった「虻田の雪蛇」はSNSなどでも話題を呼び、巳年に合わせて複数の雑誌や書籍でも取り上げられました。

そんな虻田神社にもう一匹の蛇が姿を見せたのは昨年の暮れ。幅180センチ、高さ90センチの大きな絵馬に描かれた白蛇を手がけたのが伊藤陽子さんです。鳥居の上で輝く太陽に向かう様子が日没後も美しく見えるようにと蛍光塗料で塗り、こまかなうろこ模様も表現しました。

伊藤さんが絵馬を手がけるようになったのは丑年の2021年。巨大絵馬を奉納することで知られる樽前神社に感銘を受けた虻田地区の喫茶店「かとれあ」店主、赤川龍磨さんからの頼みがきっかけでした。それから毎年、絵馬の奉納が続いています。

赤川さんとの交流は50年前にさかのぼり、伊藤さんがかたあの外壁に絵を描かせてほしいと頼んだことが始まり。当時、美術部に在籍していた伊藤さんはまだ高校生。物怖じせずに飛び込んだ伊藤さんを赤川さん夫妻が温かく迎え入れ、店内や客に配るマツチなどに様々なイラストを描いてもらいました。

「昔から考える前にやっちゃうタイプなんです」と明るく笑う伊藤さん。絵馬としては破格の大きさということもあり、今回は製作に1ヶ月以上を要しました。干支が美しく見えるデザインも難しく、苦労はつきものですが持ち前の行動力で毎年、難題に当たっています。

絵馬には「大変な世の中だからこそ心のよりどころが必要だと思います。見た人に『守られている』と感じてもらえたら」と願いを込めました。町民同士のつながりから現れた白蛇は、新春を迎えた洞爺湖町を優しく見守っています。

東奔西走

新年あけましておめでとうございます。昨年は洞爺湖マラソン50周年や姉妹都市・箱根町との姉妹都市提携60周年など盛りだくさんの一年でした。新年もまちの様子を紙面で伝えていきますのでご愛読ください。(D.Y)
新年あけましておめでとうございます。お正月はゆっくり過ごせたでしょうか？いつもより長く休めた分、お仕事や学校がづらいと感じる方がいるかもしれませんが、無理せず少しずつ頑張れたらいいですね。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

